

Oracle® Server X6-2L Oracle VM イン  
ストールガイド

ORACLE®

Part No: E73704-01  
2016 年 4 月



## Part No: E73704-01

Copyright © 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

### ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

### Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。



# 目次

---

このドキュメントの使用方法 .....	7
製品ドキュメントライブラリ .....	7
フィードバック .....	7
<b>Oracle VM Server ソフトウェアのインストールについて .....</b>	<b>9</b>
Oracle VM の概要 .....	9
Oracle VM Server のインストールタスクマップ .....	10
サポートされている Oracle VM Server ソフトウェア .....	11
Oracle VM Server のインストールオプション .....	12
単一サーバーのインストール方法 .....	12
Oracle VM Server の手動インストール .....	13
<b>Oracle VM Server ソフトウェアのインストール準備 .....</b>	<b>15</b>
コンソール用ディスプレイの選択 .....	15
コンソール用ディスプレイのオプション .....	16
▼ ローカルコンソールを設定する .....	16
▼ リモートコンソールを設定する .....	17
ブート環境の準備 .....	18
▼ UEFI の最適なデフォルト値を確認する .....	19
▼ ブートモードを設定する .....	21
ブートメディアオプションの選択 .....	24
ブートメディアオプションの要件 .....	24
▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する .....	25
▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する .....	25
インストール先の選択 .....	26
インストール先のオプション .....	27
▼ ローカルストレージドライブ (HDD、SSD、または RAID ボリューム) をインストール先として設定する .....	27
▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する .....	28

---

RAID の構成 .....	28
<b>Oracle VM Server ソフトウェアのインストール .....</b>	<b>29</b>
準備作業 .....	29
単一システムへの Oracle VM Server の手動インストール .....	30
▼ ローカルまたはリモートのメディアを使用して Oracle VM Server を インストールする .....	30
▼ PXE ネットワークブートを使用した Oracle VM Server のインストー ル .....	34
Oracle VM Server ソフトウェアインストール後のタスク .....	38
Oracle VM Server を更新する .....	38
Oracle VM Server のリソースを管理する .....	39
<b>ネットワークインタフェースの構成 .....</b>	<b>41</b>
NIC コネクタ .....	41
<b>索引 .....</b>	<b>43</b>

## このドキュメントの使用方法

---

- **概要** – このインストールガイドでは、Oracle VM Server ソフトウェアのインストール手順と、Oracle Server X6-2L を構成可能かつ使用可能な状態にするためのソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。
- **対象読者** – 技術者、システム管理者、認定サービスプロバイダ、およびユーザー。
- **必要な知識** – オペレーティングシステムをインストールした経験。

## 製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは <http://www.oracle.com/goto/x6-2l/docs> で入手可能です。

## フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。



# Oracle VM Server ソフトウェアのインストールについて

---

このセクションでは、Oracle Server X6-2L に Oracle VM Server をインストールする手順の概要を示します。

説明	リンク
Oracle VM の概要を確認します。	<a href="#">9 ページの「Oracle VM の概要」</a>
Oracle VM Server ソフトウェアのインストール手順を確認します。	<a href="#">10 ページの「Oracle VM Server のインストールタスクマップ」</a>
サポートされている Oracle VM Server ソフトウェアのバージョンを確認します。	<a href="#">11 ページの「サポートされている Oracle VM Server ソフトウェア」</a>
Oracle VM Server のインストールオプションを確認します。	<a href="#">12 ページの「Oracle VM Server のインストールオプション」</a>

## 関連情報

- [29 ページの「Oracle VM Server ソフトウェアのインストール」](#)

## Oracle VM の概要

Oracle VM は、仮想化テクノロジーの最新の利点をすべて備えたフル機能の環境を提供するプラットフォームです。Oracle VM を使用すれば、サポートされる仮想化環境内にオペレーティングシステムやアプリケーションソフトウェアを配備できます。Oracle VM アーキテクチャーには Oracle VM Manager と Oracle VM Server が含まれます。

Oracle VM Manager は、Oracle VM Server、仮想マシン、およびリソースの管理に使用されます。これはいくつかのサブコンポーネントから構成されており、Web ブラウザベースのユーザーインターフェイスとコマンド行インターフェイス (CLI) を含んでいます。CLI では、外部スクリプト経由または手動コマンドシーケンス実行により、インフラストラクチャーをコマンド行から直接管理できます。これらのインターフェイスは

それぞれ、Oracle VM Manager のコアとは別個のアプリケーションとして実行され、コアとのインタフェースとして Web Services API が使用されます。

Oracle VM Server は管理対象となる仮想化環境であり、仮想マシン (別名「ドメイン」) を実行するための軽量でセキュアなサーバプラットフォームを提供します。これらの仮想マシンは Linux、Oracle Solaris、Microsoft Windows のいずれかになります。

Oracle VM Server は最低 1 つは必要ですが、クラスタリングを活用するにはいくつか必要になります。x86 ベースシステムの場合、Oracle VM Server はベースとなる Xen ハイパーバイザテクノロジーの更新版に基づいており、Oracle VM Agent を含んでいます。Oracle VM Agent は、Oracle VM Manager との通信の管理に使用されます。

このドキュメントでは、Oracle VM Server を Oracle Server X6-2L にインストールする方法について説明します。完全な Oracle VM 環境や、Oracle VM のその他のコンポーネントのインストール手順については、次の Oracle VM ドキュメントを参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html>

## Oracle VM Server のインストールタスクマップ

次の表では、Oracle VM Server をインストールするための大まかな手順について説明します。

手順	説明	リンク
1.	サーバーのプロダクトノートを確認します。	『Oracle Server X6-2L プロダクトノート』 ( <a href="http://www.oracle.com/goto/x6-2l/docs">http://www.oracle.com/goto/x6-2l/docs</a> )
2.	サーバーハードウェアを設置します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 『Oracle Server X6-2L 設置ガイド』の「サーバーのラックへの設置」</li> <li>■ 『Oracle Server X6-2L 設置ガイド』の「サーバーのケーブル接続と電源の投入」</li> </ul>
3.	サービスプロセッサを構成します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 『Oracle Server X6-2L 設置ガイド』の「Oracle ILOM への接続」</li> </ul>
4.	サーバーでサポートされている Oracle VM Server のバージョンを確認します。	11 ページの「サポートされている Oracle VM Server ソフトウェア」
5.	Oracle VM Manager をインストール可能な、静的 IP アドレスを備えた 2 番目のシステムを設定します。このシステムには、次のいずれかのオペレーティングシステムがインストールされている必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Oracle Linux 5 Update 5、64 ビット以降</li> <li>■ Oracle Linux 6、64 ビット以降</li> </ul>	<a href="http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html">http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html</a> にある Oracle VM リリースノート (リリース 3.4)、Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.4)、および Oracle VM ユーザーズガイド (リリース 3.4)

手順	説明	リンク
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Oracle Linux 7、64 ビット以降</li> <li>■ Red Hat Enterprise Linux 5 Update 5、64 ビット以降</li> <li>■ Red Hat Enterprise Linux 6、64 ビット以降</li> <li>■ Red Hat Enterprise Linux 7、64 ビット以降</li> </ul>	
6.	Oracle VM Server のインストールメディアと Oracle VM のドキュメントを入手します。Oracle VM のドキュメントを、このガイドで説明されているインストール手順とともに使用するように入力してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Oracle VM Server インストールプログラムの ISO イメージは、<a href="https://edelivery.oracle.com/oraclevm">https://edelivery.oracle.com/oraclevm</a> からダウンロードできます。</li> <li>Oracle VM Server ISO イメージを DVD からインストールする場合は、Oracle VM Server ISO ファイルをブート可能 DVD に書き込みます。</li> <li>■ Oracle VM のドキュメントは <a href="http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html">http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html</a> で入手可能です。</li> </ul>
7.	インストールの実行に使用するブート環境、コンソール、ブートメディア、およびインストール先を設定します。	<a href="#">15 ページの「Oracle VM Server ソフトウェアのインストール準備」</a>
8.	Oracle VM Server をインストールし、必要に応じて Oracle VM Manager もインストールします。	<a href="#">29 ページの「Oracle VM Server ソフトウェアのインストール」</a>
9.	インストール後のタスクを実行します (該当する場合)。	<a href="#">38 ページの「Oracle VM Server ソフトウェアインストール後のタスク」</a>

## 関連情報

- [15 ページの「Oracle VM Server ソフトウェアのインストール準備」](#)

## サポートされている Oracle VM Server ソフトウェア

サーバーは、次の Oracle VM Server ソフトウェアをサポートしています。

VM ソフトウェア	エディション
Oracle VM Server	Unbreakable Enterprise Kernel 4 を含む Release 3.4.1

Oracle VM ソフトウェアがサーバーにインストールされているが、それを使用しない場合は、サポートされているその他のオペレーティングシステムや仮想マシンソフトウェアをサーバーにインストールできます。

サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの更新されたリストについては、最新版の『Oracle Server X6-2L プロダクトノート』(<http://www.oracle.com/goto/x6-2l/docs>) を参照してください。

ハードウェア互換リスト (HCL) にも、Oracle ハードウェアでサポートされている最新のオペレーティングシステムバージョンが示されています。Oracle Server X6-2L でサポートされている Oracle VM Server の最新バージョンを見つけるには、次のサイトにアクセスし、サーバーのモデル番号を使用して検索してください。

<http://linux.oracle.com/pls/apex/f?p=117:1:3991604960223967>

## 関連情報

- 29 ページの「Oracle VM Server ソフトウェアのインストール」
- 『Oracle Server X6-2L プロダクトノート』の「サポートされているオペレーティングシステム」

# Oracle VM Server のインストールオプション

Oracle VM Server を単一サーバーまたは複数のサーバーのどちらにインストールするかを選択できます。このドキュメントの範囲は、単一サーバーへの Oracle VM Server のインストールです。次の表に、これら 2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用して、複数のサーバーにオペレーティングシステムをインストールできます。詳細は、 <a href="http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html">http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html</a> にアクセスしてください。
単一サーバー	次のいずれかの方法を使用して、Oracle VM Server を単一サーバーにインストールします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ローカル: サーバーへの物理アクセスを使用して Oracle VM Server のインストールを実行します。このオプションは、サーバーのラック内への物理的な設置を完了したばかりのときにお勧めします。</li> <li>■ リモート: リモートの場所から Oracle VM Server のインストールを実行します。このオプションでは、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用して手動 Oracle VM Server インストールを実行します。</li> </ul>

## 単一サーバーのインストール方法

Oracle VM Server インストールメディアを提供するための方法を選択します。次の情報を使用して、ニーズにもっとも適したローカルまたはリモートの Oracle VM Server インストールを決定します。

メディアの提供方法	追加要件
<b>DVD ドライブを使用した Oracle VM Server のローカルインストール</b> – サーバーに接続された物理 DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボード、USB マウス、DVD ドライブ、および DVD 上の Oracle VM Server インストーラ ISO イメージ。詳細は、13 ページの「 <a href="#">Oracle VM Server の手動インストール</a> 」を参照してください。
<b>DVD ドライブまたは DVD ISO イメージを使用した Oracle VM Server のリモートインストール</b> – Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを実行しているリモートシステム上で、リダイレクトされた物理 DVD ドライブを使用します。	Web ブラウザ、接続された物理 DVD ドライブ、DVD 上の Oracle VM Server インストーラ ISO イメージ、およびサーバーの管理ポート (NET MGT) へのネットワークアクセスを備えたリモートシステム。詳細は、13 ページの「 <a href="#">Oracle VM Server の手動インストール</a> 」を参照してください。
<b>PXE イメージ</b> – サーバーの Preboot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワークインタフェースから Oracle VM インストーラを起動します。	Oracle VM のインストールイメージを含む PXE サーバー。追加情報については、Oracle VM のドキュメント ( <a href="http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html">http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html</a> ) を参照してください。

## Oracle VM Server の手動インストール

Oracle VM Server を手動でインストールするには、Oracle VM Server の配布メディアを、ローカルまたはリモートの DVD ドライブ、USB デバイス、DVD イメージのいずれかで提供します。また、必要なドライバをすべてインストールすることも必要です。サーバーのドライバは Oracle VM Server の配布メディアに含まれていますが、My Oracle Support の Web サイトから、OS 固有またはサーバー固有のパッケージとして、あるいは ISO イメージファイルとして入手することもできます。Oracle VM Server をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

My Oracle Support の Web サイトにアクセスするには、<https://support.oracle.com> に移動してください。



# Oracle VM Server ソフトウェアのインストール準備

---

このセクションでは、Oracle VM Server のインストールのために環境を準備する方法について説明します。

説明	リンク
ホストコンソールにローカルまたはリモートでアクセスします。	<a href="#">15 ページの「コンソール用ディスプレイの選択」</a>
BIOS を最適なデフォルト値に設定します。	<a href="#">18 ページの「ブート環境の準備」</a>
ブートメディアを準備します。	<a href="#">24 ページの「ブートメディアオプションの選択」</a>
インストール先を準備します。	<a href="#">26 ページの「インストール先の選択」</a>
サーバーで RAID を構成します。	<a href="#">28 ページの「RAID の構成」</a>

## 関連情報

- [30 ページの「単一システムへの Oracle VM Server の手動インストール」](#)

## コンソール用ディスプレイの選択

このセクションでは、インストールを実行するためにコンソールを接続するオプションについて説明します。

- [16 ページの「コンソール用ディスプレイのオプション」](#)
- [16 ページの「ローカルコンソールを設定する」](#)
- [17 ページの「リモートコンソールを設定する」](#)

## コンソール用ディスプレイのオプション

ローカルコンソールをサーバーのサービスプロセッサ (SP) に直接接続することにより、OS または仮想管理ソフトウェアのインストールやサーバーの管理を実行できます。サーバーでは、2 種類のローカルコンソールをサポートしています。

- シリアル管理ポート (SER MGT) に接続された端末  
この端末は、ポートに直接接続することも、ポートに直接接続された端末エミュレータに接続することもできます。
- ビデオポート (VGA) に接続された VGA モニター、および 4 つの外部 USB コネクタのいずれかに接続された USB キーボードと USB マウス

サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS または仮想管理ソフトウェアのインストールやサーバーの管理を行うこともできます。リモートコンソールには、次の 2 種類があります。

- Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続
- ネットワーク管理ポート (NET MGT) への Secure Shell (SSH) クライアント接続

## ▼ ローカルコンソールを設定する

1. 端末をシリアル管理 (SER MGT) ポートに直接、または端末エミュレータ経由で接続します。  
端末デバイスを 9600 ボー、8 ビット、パリティなし、1 ストップビット (9600/8-N-1) に設定します。
2. 端末デバイスで **Enter** キーを押して、シリアルコンソールと **Oracle ILOM SP** との接続を確立します。  
Oracle ILOM のログインプロンプトが表示されます。
3. **Oracle ILOM** にログインします。ログインプロンプトで、**Oracle ILOM** のユーザー名とパスワードを入力します。  
デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は **root** であり、パスワードは **changeme** です。  
Oracle ILOM CLI のプロンプト (**->**) が表示されます。
4. ホストコンソールに接続します。CLI プロンプトで次のように入力します。  
**-> start /HOST/console**  
シリアル管理ポート出力は、サーバーのホストシリアルローカルコンソールに自動的にルーティングされます。

## 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 ドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/goto/ilom/docs>)

## ▼ リモートコンソールを設定する

1. **サーバー SP の IP アドレスを表示または設定します。**

コマンド行インタフェース (CLI) または Web インタフェースを使用してリモートから Oracle ILOM にログインするには、サーバー SP の IP アドレスを確認しておく必要があります。サーバーの IP アドレスを確認する手順については、『[Oracle Server X6-2L 設置ガイド](#)』の「[Oracle ILOM を使用してサービスプロセッサのネットワーク設定を変更する](#)」を参照してください。
2. **Web ベースのクライアント接続を使用している場合は、次の手順を実行します。それ以外の場合は手順 3 に進みます。**
  - a. **サーバーのネットワーク管理ポート (NET MGT) へのネットワークアクセスを備えたリモートシステム上で、Web ブラウザを開きます。**
  - b. **ブラウザのアドレスバーにサーバー SP の IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。**

Oracle ILOM のログインプロンプトが表示されます。
  - c. **Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。ログインプロンプトで、Oracle ILOM のユーザー名とパスワードを入力します。**

デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root、デフォルトのパスワードは changeme です。  
Oracle ILOM の「Summary Information」ページが表示されます。
  - d. **「Actions」パネルで、「Remote Console Launch」ボタンをクリックします。**

Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラス画面が表示されます。  
詳細については、『[Oracle Server X6-2L 設置ガイド](#)』の「[Oracle ILOM を使用してホストサーバーデスクトップまたはストレージデバイスをリダイレクトする](#)」を参照してください。
3. **SSH クライアント接続を使用している場合は、次の手順を実行します。**
  - a. **シリアルコンソールから、サーバー SP への SSH 接続を確立します。次のように入力します。**

```
ssh root@hostname
```

ここで、*hostname* にはサーバー SP の DNS 名または IP アドレスを指定できます。

Oracle ILOM のログインプロンプトが表示されます。

- b. **Oracle ILOM にログインします。ログインプロンプトで、Oracle ILOM のユーザー名とパスワードを入力します。**

デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は *root*、デフォルトのパスワードは *changeme* です。

Oracle ILOM CLI のプロンプト (->) が表示されます。

- c. シリアル出力をサーバーから **SSH クライアント** にリダイレクトします。次のように入力します。

```
-> start /HOST/console
```

## 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 のドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/goto/ilom/docs>)

## ブート環境の準備

Oracle VM Server をインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) 設定が構成されていることを確認してください。UEFI 設定ユーティリティでは、ブート順序やブートモードなどの UEFI 設定を変更できます。

次のトピックは、インストールをサポートするように UEFI を構成する方法に関する具体的な手順を示しています。

- [19 ページの「UEFI の最適なデフォルト値を確認する」](#)
- [21 ページの「ブートモードを設定する」](#)

ブートプロパティの変更の詳細については、『[Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド](#)』 (<http://www.oracle.com/goto/x86admindiag/docs>) を参照してください。

## ▼ UEFI の最適なデフォルト値を確認する

---

**注記** - サーバーが新しく設置され、ここでオペレーティングシステムがはじめてインストールされる場合、UEFI はおそらくそのデフォルト設定に構成されているため、このタスクを実行する必要はありません。

---

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて UEFI 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。最適なデフォルト値を設定することにより、良好であることがわかっている構成でサーバーが効率的に動作することが保証されます。最適なデフォルト値は『Oracle Server X6-2L サービスマニュアル』で確認できます。

F2 キーを使用して BIOS 設定ユーティリティで行なった変更はすべて、次回に変更するまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集するだけでなく、ブートプロセス中に F8 キーを使用して一時ブートデバイスを指定することもできます。F8 キーを使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートでのみ有効です。一時ブートデバイスからブートしたあとは、F2 キーを使用して指定された常時ブートデバイスが有効になります。

開始する前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- サーバーにハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) が搭載されています。
- サーバーに HDD または SSD が正しく取り付けられています。手順については、『Oracle Server X6-2L サービスマニュアル』の「ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守」を参照してください。
- サーバーへのコンソールセッションが確立されています。詳細については、15 ページの「コンソール用ディスプレイの選択」を参照してください。

Oracle VM Server を使用するには、次のサーバー BIOS 設定が必要になる可能性があります。

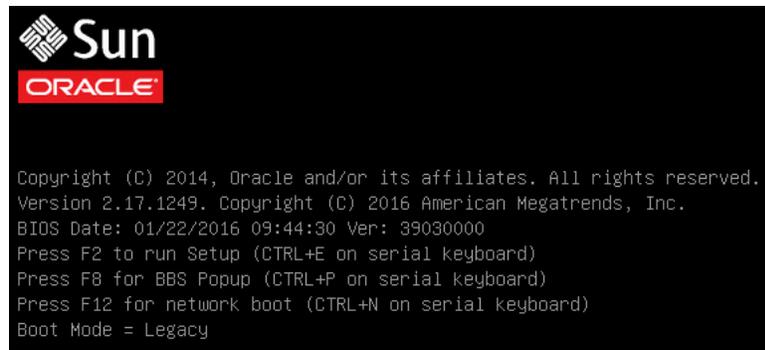
- CDROM からインストールを実行するための CDROM デバイスが認識されるには、AHCI モードが必要になる可能性があります。
- I/O MMU 仮想設定を無効化します。Intel ベースのサーバーの場合、これは VT-d になります。I/O MMU (I/O Memory Management Unit) はこのリリースではサポートされません。

### 1. サーバーの電源を入れるか、サーバーをリセットします。

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- ローカルサーバーで、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- Oracle ILOM Web インタフェースから「Host Management」->「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- Oracle ILOM CLI から、「reset /System」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



---

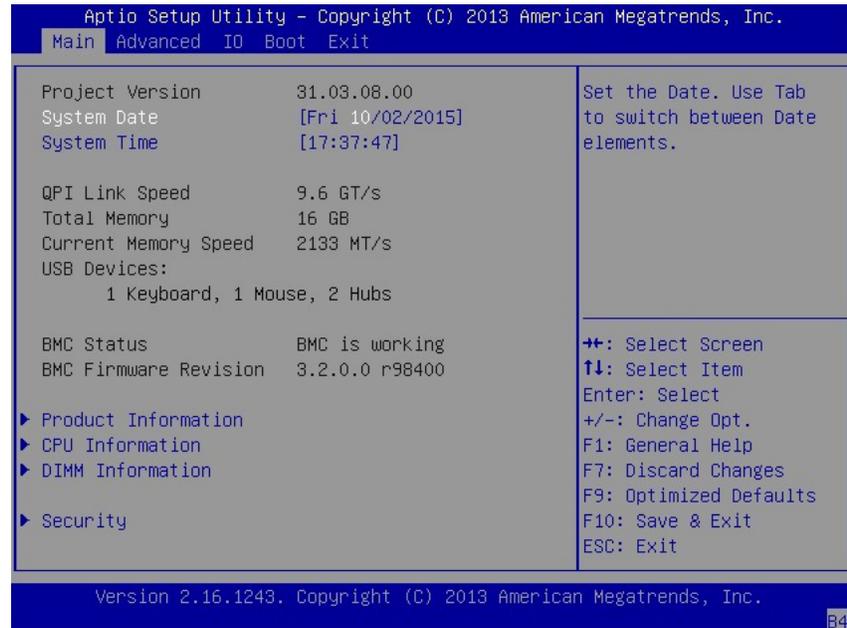
注記 - 次のイベントは非常にすばやく起こるので、F2 キーを押す準備をしておいてください。メッセージは画面に表示される時間が短いため、注意してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大することをお勧めします。

---

2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

[Setup Selected] およびブートモード (レガシーまたは UEFI) が BIOS 画面の最下部に表示されたあと、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

注記 - BIOS 設定ユーティリティー画面の表示には数分かかることがあります。



3. **F9** キーを押して、最適なデフォルト設定を自動的にロードします。  
「OK,」を選択してこの操作を続行するか、「Cancel」を選択してこの操作を取り消すよう求めるメッセージが表示されます。
4. メッセージの「ok」を強調表示し、**Enter** キーを押します。
5. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、**F10** キーを押します。  
あるいは、「Exit」メニューで「Save Changes and Exit」を選択することもできます。

## ▼ ブートモードを設定する

サーバーには、レガシー BIOS と UEFI の両方のブートモードをサポートする Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) が装備されています。デフォルトでは、レガシー BIOS ブートモードが有効になります。

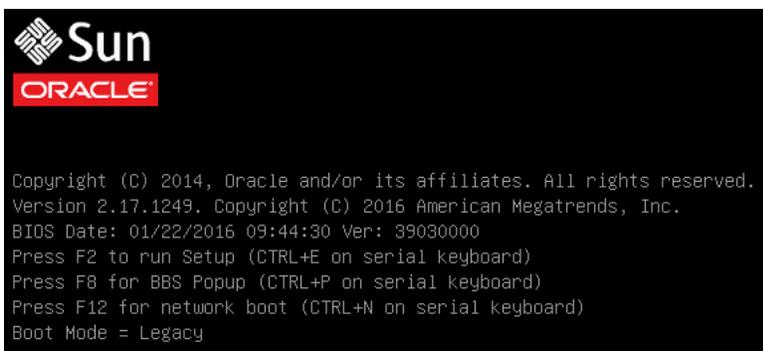
ブートモードを確認または変更するには、次の手順を参照してください。

**1. サーバーの電源を投入するか、サーバーをリセットします。**

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI から**、「`reset /System`」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



---

**注記** - 次のイベントは非常にすばやく起こるので、F2 キーを押す準備をしておいてください。メッセージは画面に表示される時間が短いため、注意してください。

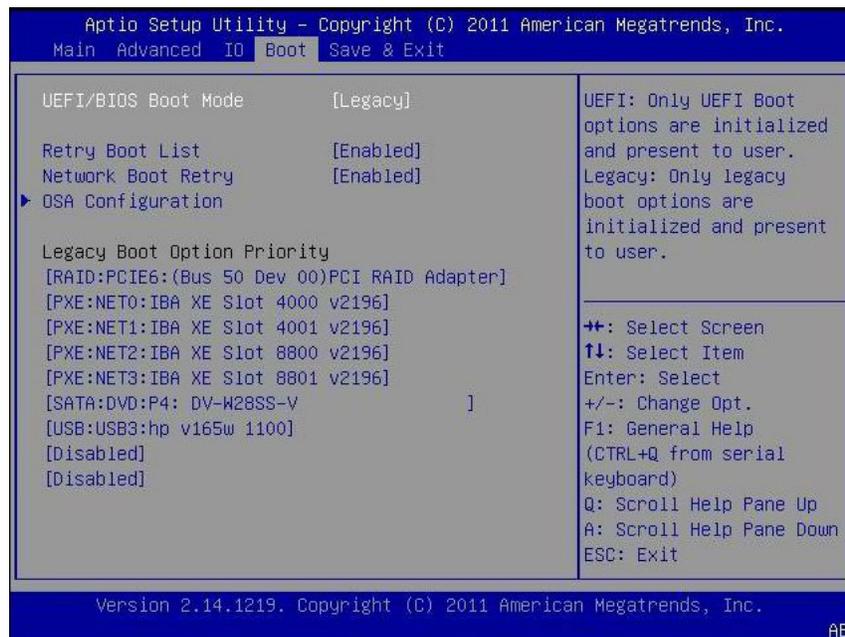
---

**2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。**

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティーの「Main」メニューが表示されます。

**3. BIOS 設定ユーティリティーで、矢印キーを使用して「Boot」メニューに移動します。**

「Boot」メニューが表示されます。「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドに現在のブートモードが表示されます。



注記 - ブート順序リスト内のオプションは、ストレージドライブ構成や、永続ブートサポート機能を有効にしているかどうかによって異なります。永続ブートサポートの詳細については、『Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86admindiag/docs>) を参照してください。

4. 下矢印キーを使用して「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択し、Enter キーを押します。
5. 優先ブートモードを選択し、Enter キーを押します。  
ソフトウェアのインストールを開始する前に、目的のブートモード (レガシー BIOS または UEFI) を選択する必要があります。
6. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。  
あるいは、「Exit」メニューで「Save Changes and Exit」を選択することもできます。

## ブートメディアオプションの選択

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースからブートします。このセクションでは、サポートされるメディアソースと各ソースの設定要件を示します。

- [24 ページの「ブートメディアオプションの要件」](#)
- [25 ページの「ローカルインストール用のブートメディアを設定する」](#)
- [25 ページの「リモートインストール用のブートメディアを設定する」](#)

## ブートメディアオプションの要件

このセクションでは、ローカルおよびリモートメディアを使用するための要件について説明します。

- [24 ページの「ローカルブートメディアの要件」](#)
- [24 ページの「リモートブートメディアの要件」](#)

### ローカルブートメディアの要件

ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。

### リモートブートメディアの要件

リモートブートメディアを使用すると、ネットワーク経由でインストールをブートできます。インストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、PreBoot eXecution Environment (PXE) を使ってネットワーク経由で ISO イメージをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。

サポートされている OS のリモートブートメディアソースを次に示します。

- リモート DVD ドライブに挿入された DVD-ROM インストールメディア、またはリモート USB リムーバブルフラッシュドライブのインストールメディア
- 仮想リダイレクション用に設定されたネットワーク上の場所で使用できる DVD-ROM ISO イメージ
- サーバーのサービスプロセッサ (SP) 上にマウントされた DVD-ROM インストールメディアイメージ

インストールイメージをサーバー SP にマウントする手順については、『*Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド*』(<http://www.oracle.com/goto/ilom/>)

[docs](#)) を参照してください。あるいは、Oracle ILOM の「Remote Control」-> 「Remote Device」 Web インタフェースページの「More Details」リンクを参照してください。

- PXE ブート – Oracle VM は PXE ブートをサポートします。いったん PXE ブートが開始されると、Oracle VM のインストールは Automated Installation (AI) インストーラを使用して実行されます。サポートされている Oracle VM の PXE ネットワークインストールを実行する手順については、『Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.4)』 (<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html>) を参照してください

## ▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する

1. DVD バーナーを備えたシステム上で、Oracle Software Delivery Cloud Web サイト (<https://edelivery.oracle.com/oraclevm>) から Oracle VM Server インストーラの ISO イメージをダウンロードします。
2. CD、DVD、またはフラッシュドライブに ISO イメージを書き込みます。
3. Oracle VM Server インストール DVD をサーバーに接続された DVD ドライブに挿入します。
  - サーバーにオプションの DVD ドライブが装備されている場合は、サーバーのフロントパネルにある DVD ドライブにインストールメディアを挿入します。
  - サーバーに DVD ドライブがない場合は、サーバー前面または背面のサーバー USB ポートの 1 つに、Oracle VM インストーライメージを含む外付け USB DVD ドライブまたは USB フラッシュドライブを接続します。

サーバーにローカルデバイスを接続する方法については、『Oracle Server X6-2L 設置ガイド』の「サーバーのケーブル接続と電源の投入」を参照してください。  
詳細については、『Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.4)』 (<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html>) を参照してください

## ▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する

1. サーバーのネットワーク管理ポート (NET MGT) へのネットワークアクセスを備えたリモートシステム上で、Oracle Software Delivery Cloud Web サイト (<https://edelivery.oracle.com/oraclevm>) から Oracle VM Server インストーラの ISO イメージをダウンロードします。

あるいは、次のいずれかを実行できます。

- インストールイメージを **CD** または **DVD** に書き込んでから、そのインストールメディアをリモートシステムに接続された **DVD** ドライブに挿入します。
  - インストールイメージをネットワーク上の別の場所にダウンロードしてから、**NFS** または **Samba** プロトコルを使用して、そのイメージをサーバーのサービスプロセッサにリダイレクトします。  
ネットワーク上の別の場所からの ISO イメージのリダイレクトについては、『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』の Oracle ILOM リモートデバイスのセクション、または「Oracle ILOM Remote Control」->「Host Storage Device」Web インタフェースページにある「More Details」リンクを参照してください。
2. サーバーの **Oracle ILOM SP** への **Web** ベースのクライアント接続を確立し、リモートシステム上の **Oracle ILOM** リモートシステムコンソールプラスを起動します。  
手順については、[17 ページの「リモートコンソールを設定する」](#)を参照してください。
  3. リモートコンソールで、次を実行します。
    - a. 「KVMS」をクリックして「KVMS」メニューを表示します。
    - b. 「Storage」をクリックします。  
「Storage Devices」ダイアログボックスが表示されます。
    - c. 「Storage Devices」ダイアログボックスで、「Add」をクリックします。  
「Add Storage Devices」ダイアログボックスが表示されます。
    - d. ISO イメージを参照して選択し、「Select」をクリックします。  
「Storage Devices」画面が表示され、ISO イメージが一覧表示されます。
    - e. ISO イメージを選択し、「Connect」をクリックします。  
ISO イメージがリモートコンソールにマウントされ、OS インストールの実行に使用できるようになります。

## インストール先の選択

Oracle VM Server インストーラをブートする前に、インストール先を選択して準備します。

- 27 ページの「インストール先のオプション」
- 27 ページの「ローカルストレージドライブ (HDD、SSD、または RAID ボリューム) をインストール先として設定する」
- 28 ページの「ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する」

## インストール先のオプション

サーバーフロントパネル上のオプションの NVM Express ドライブ (NVMe) を除いて、サーバーに取り付けられた任意のストレージドライブにソフトウェアをインストールできます。ハードディスクドライブ (HDD)、ソリッドステートドライブ (SSD)、および RAID ボリュームは、Oracle VM Server の有効なインストール先です。

ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けのファイバチャネルストレージデバイスにインストールすることを選択できます。

---

注記 - NVMe ドライブは、Oracle VM ソフトウェアを実行しているサーバーではサポートされません。サーバーに NVMe ドライブが装備されている場合にこれらのドライブを使用するには、Oracle Solaris または Oracle Linux オペレーティングシステムのどちらかをインストールする必要があります。

---

### ▼ ローカルストレージドライブ (HDD、SSD、または RAID ボリューム) をインストール先として設定する

1. ターゲットのハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) が正しく取り付けられ、電源が入っていることを確認します。  
HDD または SSD の取り付けおよび電源投入の詳細は、『Oracle Server X6-2L サービスマニュアル』の「ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守」を参照してください。
2. ターゲットのドライブが環境に合わせて構成されていることを確認します。  
デフォルトでは、サーバー上の各物理ドライブが論理 RAID 0 ボリュームとして構成されます。代替構成を実装するには、次のリソースを参照してください。
  - 『Oracle Server X6-2L 設置ガイド』の「オペレーティングシステムインストールのためのストレージドライブの構成」
  - 『Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド』 (<http://www.oracle.com/goto/x86adminddiag/docs>)

## ▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する

1. ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) がサーバーに正しく取り付けられていることを確認します。

PCIe HBA オプションの取り付けの詳細は、『Oracle Server X6-2L サービスマニュアル』の「PCIe カード (CRU) の保守」を参照してください。

2. Storage Area Network (SAN) が取り付けられ、かつサーバー上のホストでストレージデバイスが認識されるように構成されていることを確認します。

手順については、ファイバチャネル HBA に付属のドキュメントを参照してください。

## RAID の構成

RAID (Redundant Array of Independent Disks) 構成でサーバーストレージドライブを構成する場合は、Oracle VM Server ソフトウェアをインストールする前に RAID ボリュームを構成する必要があります。RAID の構成手順については、『Oracle Server X6-2L 設置ガイド』の「オペレーティングシステムインストールのためのストレージドライブの構成」を参照してください。

### 関連情報

- 『Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド』 (<http://www.oracle.com/goto/x86admindiag/docs>)

# Oracle VM Server ソフトウェアのインストール

---

このセクションでは、Oracle VM Server を Oracle Server X6-2L にインストールする手順について説明します。

説明	リンク
インストール前の要件。	<a href="#">29 ページの「準備作業」</a>
メディアを使用した単一サーバーへの Oracle VM Server ソフトウェアのインストール。	<a href="#">30 ページの「単一システムへの Oracle VM Server の手動インストール」</a>
インストール後のタスクの実行。	<a href="#">38 ページの「Oracle VM Server ソフトウェアインストール後のタスク」</a>

## 関連情報

- [9 ページの「Oracle VM Server ソフトウェアのインストールについて」](#)

## 準備作業

次の要件が満たされていることを確認してください。

- ホストコンソールにアクセスできること。詳細については、[15 ページの「コンソール用ディスプレイの選択」](#)を参照してください。
- ブート環境を準備していること。詳細については、[18 ページの「ブート環境の準備」](#)を参照してください。
- ブートメディアを準備していること。詳細については、[24 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。
- インストール先を選択しており、それが正しく設置されていることを確認していること。詳細については、[26 ページの「インストール先の選択」](#)を参照してください。
- 静的 IP アドレスを保持する次の 2 つのシステムが設定されていること。
  - Oracle VM Server をインストールするための 1 つのシステム。
  - 次のいずれかを備えた Oracle VM Manager のための 1 つのシステム。

- Oracle Linux 5 Update 5、64 ビット以降
- Oracle Linux 6、64 ビット以降
- Oracle Linux 7、64 ビット以降
- Red Hat Enterprise Linux 5 Update 5、64 ビット以降
- Red Hat Enterprise Linux 6、64 ビット以降
- Red Hat Enterprise Linux 7、64 ビット以降
- 『Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.4)』 (<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html>) にあるその他のインストール前のタスクと要件を確認していること。
- Oracle VM Server のインストールドキュメントにアクセスできること。Oracle VM 3.4 のドキュメントライブラリは、<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html> で入手できます。

## 単一システムへの Oracle VM Server の手動インストール

このセクションでは、Oracle VM Server 3.4.1 (Unbreakable Enterprise Kernel 4 を含む) ソフトウェアのインストールに関する情報を提供します。

- [30 ページの「ローカルまたはリモートのメディアを使用して Oracle VM Server をインストールする」](#)

### ▼ ローカルまたはリモートのメディアを使用して Oracle VM Server をインストールする

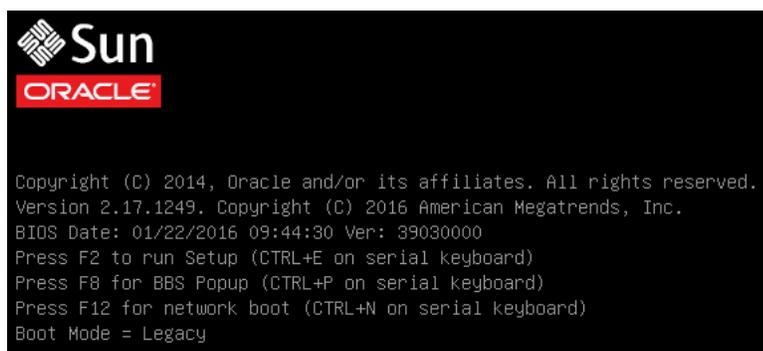
開始する前に、[29 ページの「準備作業」](#)にあるインストールの前提条件を確認してください。

1. ホストコンソールにアクセスします。  
手順については、[15 ページの「コンソール用ディスプレイの選択」](#)を参照してください。
2. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。  
詳細については、[24 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。
3. サーバーの電源を投入するか、サーバーをリセットします。

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI から**、「reset /system」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



**注記** - 次のイベントは非常にすばやく起こるので、F8 キーを押す準備をしておいてください。メッセージは画面に表示される時間が短いため、注意してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大することをお勧めします。

4. **BIOS 画面で、F8 キーを押して Oracle VM Server インストール用の一時ブートデバイスを指定します。**

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。

5. **「Please Select Boot Device」メニューで、ブートデバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。**

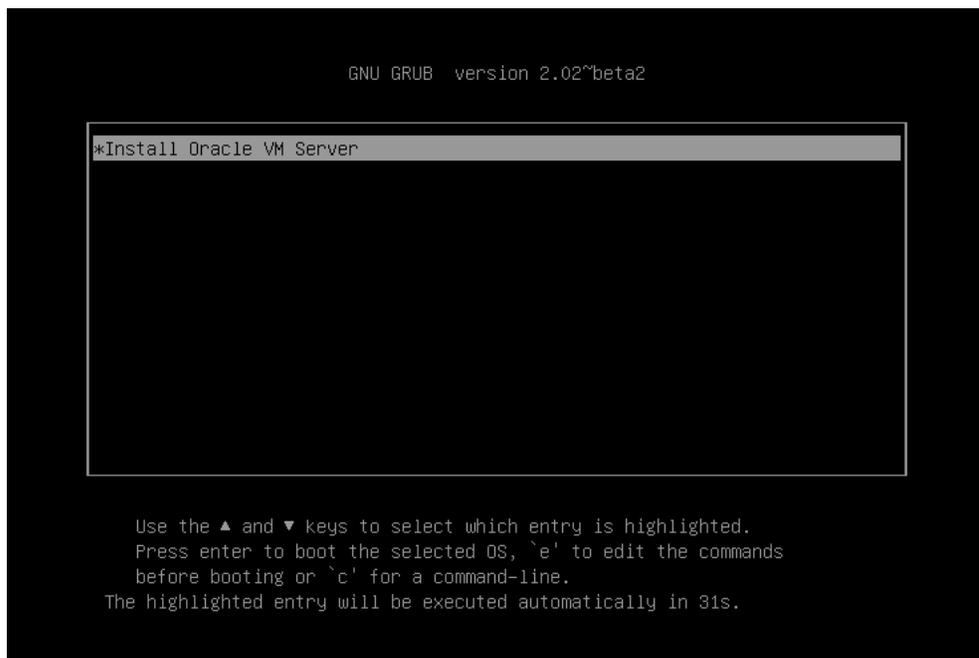
「Boot Device」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。

数秒後、Oracle VM Server のスプラッシュ画面が表示されます。表示される画面は、UEFI/BIOS ブートモードがレガシー BIOS または UEFI のどちらに構成されているかによって異なります。

- レガシー BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。

```
- Press the <ENTER> key to begin the installation process.
- To perform a physical to virtual conversion type p2v and
  press the <ENTER> key.
boot: _
```

- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



6. **Enter キーを押してインストールを開始します。**  
キーを押さなければ、1分後にインストーラが自動的に起動します。インストーラはテキストモードでのみ使用できます。
7. <http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html> にある『**Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.4)**』を参照してください。  
*Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.4)* は、Oracle VM をインストールするための詳細な手順を提供します。

8. 画面上のプロンプトに従って Oracle VM Server および Oracle VM Server Agent をインストールします。
9. 画面上のプロンプトに従っていくと、「Partitioning Type」画面が表示されます。



注記 - 次の手順は『Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.4)』 (<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html>) で説明されていますが、Oracle VM Server のインストール先のドライブを選択するときに注意が必要なため、ここに含まれています。

10. 「Partitioning Type」画面で次を行います。
  - a. 次のいずれかのパーティションレイアウトを選択します。
    - ドライブ全体を使用する
    - 既存の Linux システムを置き換える
    - 空き領域を使用する
  - b. インストールで使用するドライブを選択します。
  - c. 「OK」を選択してインストールを続行します。
11. インストールを完了するには、Oracle VM のインストールドキュメントを参照し、その手順に従ってください。

<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html> にある『Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.4)』を参照してください。

---

注記 - Oracle VM のインストールには2つのパスワードが必要です。1つは Oracle VM Server の root アカウント用、もう1つは Oracle VM Agent 用です。

---

**12. Oracle VM Server および Oracle VM Agent のインストールが完了したら、次のいずれかを行います。**

- Oracle VM Server を管理するように Oracle VM Manager が構成されていない場合は、38 ページの「Oracle VM Server ソフトウェアインストール後のタスク」に進む前にそれをインストールする必要があります。

Oracle VM Manager をインストールする手順については、<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html> にある『Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.4)』を参照してください。

- Oracle VM Server を管理するためにすでに Oracle VM Manager が構成されている場合は、38 ページの「Oracle VM Server ソフトウェアインストール後のタスク」に進みます。

## ▼ PXE ネットワークブートを使用した Oracle VM Server のインストール

次の手順では、PXE ネットワーク環境から Oracle VM Server 3.4.1 (Unbreakable Enterprise Kernel 4 を含む) ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

準備作業として次の要件が満たされていることを確認したあとで、Oracle VM Server 3.4.1 (Unbreakable Enterprise Kernel 4 を含む) PXE ブートインストールを開始してください。

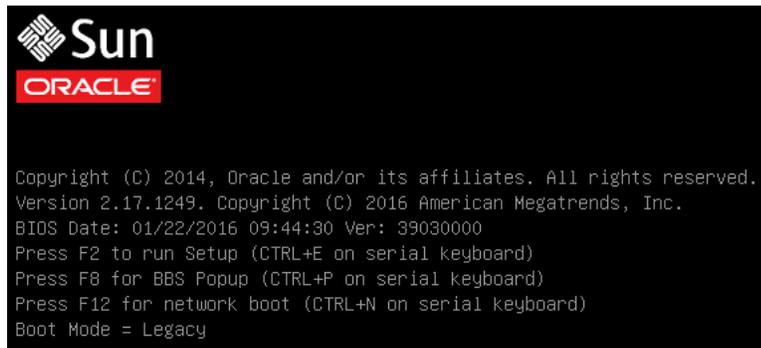
- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、Automated Installation (AI) イメージインストールサーバーが設定され、ネットワーク経由でサーバーからアクセス可能であることを確認してください。
- AI サーバーでインストールクライアントの MAC アドレスが必要な場合は、Oracle ILOM SP に root としてログインして次を入力することで、システムの MAC アドレスを取得できます。

```
-> show /SYS/MB/NET0 fru_macaddress
/SYS/MB/NET0
Properties:
```

```
fru_macaddress = 00:21:28:e7:77:24
```

1. PXE ネットワーク環境が正しく設定されていることを確認します。
2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。  
たとえば、次のいずれかを行なってサーバーをリセットします。
  - ローカルサーバーで、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを (約 1 秒間) 押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
  - Oracle ILOM Web インタフェースから「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
  - Oracle ILOM CLI から、「reset /System」と入力します。

システムがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



---

**注記** - 次のステップは非常にすばやく起こるので、F2 キーを押す準備をしておいてください。メッセージは画面に表示される時間が短いため、注意してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大することをお勧めします。

---

3. PXE ブートが有効になっていることを確認するために、次の手順を実行します。

---

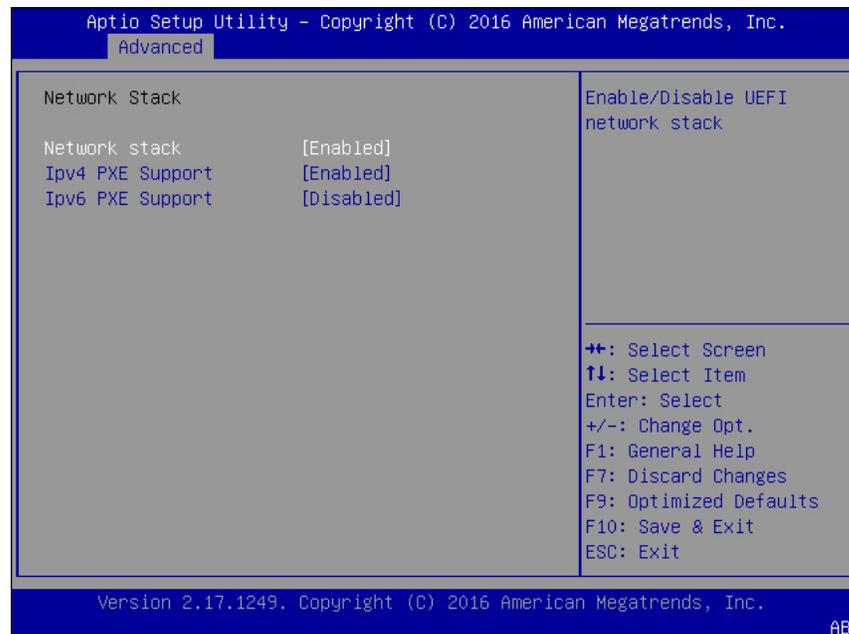
**注記** - PXE ブートはデフォルトで有効になっていますが、この手順では無効になっている場合に備えて、PXE ブートが有効になっていることを確認します。PXE ブートが有効になっていることを確認したら、以降の PXE ブートではこの手順を省略できます。

---

- a. F2 キーを押して、BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。

BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

- b. 上部のメニューバーで「**Advanced**」を選択します。  
BIOS 設定ユーティリティの「Advanced」画面が表示されます。
- c. 使用可能なオプションのリストから「**Network Stack**」を選択します。  
BIOS 設定ユーティリティの「Network Stack」画面が表示されます。



- d. 必要に応じて、該当する PXE サポート設定 (IPv4 または IPv6 のいずれか) を「**Enabled**」に設定します。
- e. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、**F10** キーを押します。

これにより、サーバーがリセットされます。リセット後、再度 BIOS 画面が表示されます。

4. BIOS 画面で、**F8** キーを押して一時ブートデバイスを指定するか、**F12** キーを押してネットワークブート (PXE) します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示され、使用可能なブートデバイスが一覧表示されます。表示される画面は、BIOS がレガシー BIOS ブートモードまたは UEFI ブートモードのどちらに構成されているかによって異なります。

- レガシー BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。

```
Please select boot device:
-----
USB:VIRTUAL:Remote Iso CDR0M2.05
SAS:PCIE6:E02S0C-2F0247C9 HGST H101860SFSUN60
SAS:PCIE6:E02S0D-2F02F4A5 HGST H101860SFSUN60
USB:USBIN0:ORACLE SSM PMAP
PXE:NET0:IBA XE Slot 3A00 v2320
PXE:NET1:IBA XE Slot 3A01 v2320
PXE:NET2:IBA XE Slot 8200 v2320
PXE:NET3:IBA XE Slot 8201 v2320
Enter Setup
-----
↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults
```

- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。

```
Please select boot device:
-----
[UEFI]PXE:NET0:IP4 Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:NET1:IP4 Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:NET2:IP4 Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]PXE:NET3:IP4 Intel(R) Ethernet Controller 10 Gigabit X540-AT2
[UEFI]USB:VIRTUAL:SUN Remote ISO CDR0M2.05
Oracle Linux
Enter Setup
-----
↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults
```

**注記** - 「Please Select Boot Device」メニューのオプション、サーバーに取り付けられているディスクコントローラや PCIe ネットワークカードなどのその他のハードウェアのタイプによって異なる場合があります。

5. 「Please Select Boot Device」メニューで、適切な PXE ブートポートを選択し、Enter キーを押します。  
PXE ブートポートは、ネットワークインストールサーバーと通信するように構成された物理ネットワークポートです。  
GRUB メニューが表示されます。
6. 画面に表示されるプロンプトに従って PXE インストールを完了します。  
PXE インストールを完了する手順については、『Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド (リリース 3.4)』(<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html>) を参照してください。
7. 38 ページの「Oracle VM Server ソフトウェアインストール後のタスク」のセクションに進み、インストール後のタスクを実行します。

#### 関連情報

- 38 ページの「Oracle VM Server ソフトウェアインストール後のタスク」

## Oracle VM Server ソフトウェアインストール後のタスク

Oracle VM Server のインストールを完了したら、次のインストール後のタスクを確認し、必要に応じて、使用しているシステムに該当するタスクを実行します。

- 38 ページの「Oracle VM Server を更新する」
- 39 ページの「Oracle VM Server のリソースを管理する」

## Oracle VM Server を更新する

Oracle VM Server のインストールメディアには、最新バージョンのソフトウェアが含まれていない場合があります。必要に応じて、最新のアップデートを使用して Oracle VM Server ソフトウェアを更新します。最新版のソフトウェアをダウンロードするには、次の Oracle Software Delivery Cloud Web サイトにアクセスしてください。

<https://edelivery.oracle.com/oraclevm>

## Oracle VM Server のリソースを管理する

Oracle VM Server のリソースの構成、アクセス、および管理を行う方法については、次の場所にある Oracle VM リリース 3.4 のドキュメントライブラリを参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html>



## ネットワークインタフェースの構成

---

このセクションでは、サーバー上のネットワークコネクタについて説明します。

- [41 ページの「NIC コネクタ」](#)

### NIC コネクタ

ネットワークインタフェースカードのコネクタには、次のようなラベルが貼付されています。

表 1 NIC コネクタのラベル

NIC コネクタのラベル	インタフェースタイプ
NET0	第 1 インタフェース (eth 0)
NET1	第 2 インタフェース (eth 1)
NET2	第 3 インタフェース (eth 2)
NET3	第 4 インタフェース (eth 3)

---

注記 - シングルプロセッサシステムでは、Ethernet ポート NET 2 および NET 3 は機能しません。

---



# 索引

---

## あ

- 一時ブートデバイス
  - 指定, 31
- インストール
  - PXE ネットワークブートの使用, 24
  - PXE ネットワークブートを使用, 34
  - インストールメディアを使用, 30
  - 概要, 9
  - 前提条件, 29
  - タスクマップ, 10
- インストールオプション, 12
- インストール後のタスク, 38
- インストール先
  - オプション, 27
  - 準備, 26
  - ファイバチャネル Storage Area Network (SAN) デバイス, 28
  - ローカルストレージドライブ, 27
- インストールのタスクマップ, 10
- インストールブートメディア, 24
- インストール方法
  - PXE イメージ, 13
  - 手動, 13
  - 単一サーバー, 12
  - ブートメディアオプション, 24
  - 複数のサーバー, 12
  - リモート, 13
  - ローカル, 13
- オペレーティングシステム
  - インストールオプション, 10
  - サポートされているバージョン, 11

## か

- 構成

- ネットワークインタフェースカード, 41
- コンソール
  - 接続, 15
  - ディスプレイオプションの選択, 15
  - リモート, 17
  - ローカル, 16

## さ

- サーバーの電源
  - 電源投入, 22
  - リセット, 22
- サーバーの電源の投入, 30
- サーバーの電源のリセット, 30
- サーバーの IP アドレス, 17
- サポートされているソフトウェアバージョン, 11
- シリアル管理ポート
  - ボーレート, 16
  - ホストシリアルポートへの接続, 16
- ソフトウェア
  - インストールオプション, 27
  - サポートされているバージョン, 11
- ソフトウェアの更新
  - Oracle VM, 38

## た

- ドキュメント
  - Oracle ILOM, 17
  - Oracle VM, 39
  - Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド, 23
  - サーバー用, 11
  - フィードバック, 7

**な**

- ネットワークインタフェースカード  
構成, 41  
ラベルおよびタイプ, 41

**は**

- ハードウェア互換リスト, 12
- フィードバック  
ドキュメント, 7
- ブートデバイス、一時, 31
- ブートデバイスメニュー  
選択, 31
- ブートメディアオプション  
ブートプロパティの変更, 18  
リモートブートメディアの要件, 24  
ローカルブートメディアの要件, 24
- ブートモード  
設定, 21
- プロダクトノート, 11

**ら**

- リモートインストール  
ブートメディアの設定, 25
- リモートコンソール  
設定, 17
- リモートブートメディア  
設定, 25  
要件, 24
- ローカルインストール  
設定, 25  
ブートメディアの設定, 25
- ローカルコンソール  
設定, 16
- ローカルブートメディア  
設定, 25  
要件, 24

**B**

- BIOS  
最適なデフォルト設定の確認, 19

ブートモードの設定, 21

BIOS 設定ユーティリティ, 19

**I**

- ISO イメージ  
Oracle VM, 30
- ISO イメージからのブート, 30

**M**

My Oracle Support, 13

**O**

- Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラス  
OS のインストールに使用される, 16
- Oracle VM  
インストール後のタスク, 38  
サポートされているオペレーティングシステム, 11  
ソフトウェアの更新, 38  
ドキュメント, 39  
ネットワークインタフェースの構成, 41
- Oracle VM Server  
インストールオプション, 12  
サポートされているソフトウェアバージョン, 11
- Oracle VM Server インストール  
PXE を使用, 34
- Oracle VM Server のインストール  
PXE ネットワークブートの使用, 24  
PXE ベースのネットワーク上のリモートメディアを使用, 34  
インストール後のタスク, 38  
概要, 9  
メディアを使用した単一システムへの, 30  
ローカルまたはリモートのメディアを使用, 30

**P**

- PXE インストール, 24  
Oracle VM Server, 34

## **R**

### **RAID**

構成, 28

### **RAID ボリューム**

インストール先として, 27

## **U**

### **UEFI**

最適なデフォルト設定の確認, 19

前提条件, 19

